2006 年度

<p>科目名</p> <p style="text-align: center;">国文学特殊研究Ⅱ</p>	<p>対象学科・学年</p> <p style="text-align: center;">研究科国語(前)1 回生 研究科国語(後)1 回生</p>	<p>担当者</p> <p style="text-align: center;">阪口 和子</p>
<p>授業テーマ</p> <p style="text-align: center;">『拾遺抄』を読む</p>		
<p>授業の概要と目標</p> <p>第3番目の勅撰集であり、『古今集』に始まる10世紀の和歌の到達点とされる『拾遺和歌集』の基になった『拾遺抄』は、当時の和歌の第一人者である藤原公任が花山院の命で作った勅撰集と見てよいだろう。『拾遺抄』の巻の構成に注目して歌の解釈をしてゆきたい。同時に平安時代の和歌の有り様、美意識などについて考察する。</p>		
<p>評価方法</p> <p>前期末、後期末にレポートを提出。</p>		
<p>テキスト</p> <p>プリントを配布する。</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p>
<p>参考書</p> <p>『拾遺抄』 『新日本古典文学大系 拾遺和歌集』</p>	<p>著者</p> <p>片桐洋一 小町谷照彦</p>	<p>出版社</p> <p>大学堂書店 岩波書店</p>
<p>授業スケジュール・内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、平安時代の和歌について概説。 2、同上 3、『拾遺抄』と『拾遺和歌集』について解説。 4、同上 5、歌言葉、歌語について解説。 6、同上 7、『拾遺抄』 恋部をよむ 8、①歌を内容別にグループに分けて、1首ずつ解釈する。 9、 同上 10、 同上 11、②各グループのテーマについて考察する。 12、 同上 13、 同上 15、③巻の構成について、公任の意図を探る。 16、『拾遺抄』 雑部をよむ。 ①歌を内容別にグループに分けて、1首ずつ解釈する。 17、 同上 18、 同上 19、 同上 20、 同上 21、 同上 22、②各グループのテーマについて考察する。 23、 同上 24、 同上 25、③巻の構成について、公任の意図を探る。 26、 同上 27、 同上 28、『拾遺集』と『拾遺抄』の構成の相違について講義する。 29、 同上 30 同上 <p style="text-align: center;">受講者は分担して歌の解釈を担当する。</p>		